



東彼杵のひと

vol.6

岩本 徳光さん
(熊本県出身)

岩本 たか子さん
(奈良県出身)

縫製会社 アパレルそのぎ
どちらも1942(昭和17)年生まれ
東彼杵町在住

大阪から東彼杵へ

大阪の縫製工場「島田メリヤス」に勤務していた岩本さん夫妻。1969(昭和44)年、東彼杵町の企業誘致を受けて同社の工場開設が決まり、2人が配属されました。彼杵宿郷にはミシンが並ぶ大きな縫製工場が完成。町内在住者を中心に約120人が採用され、子ども服や下着などメリヤス素材(ニット)の縫製が行われました。

移住して55年

徳光さん「従業員さんはほとんどが初心者でしたから、仕事は技術教育から始まりました。5~6年ほどして軌道に乗った頃、本社に戻るように言われたんですが、その時には東彼杵がすっかり気に入ってしまって、実家の天草にも近かったし、会社を辞めて独立しようと決心したんです」

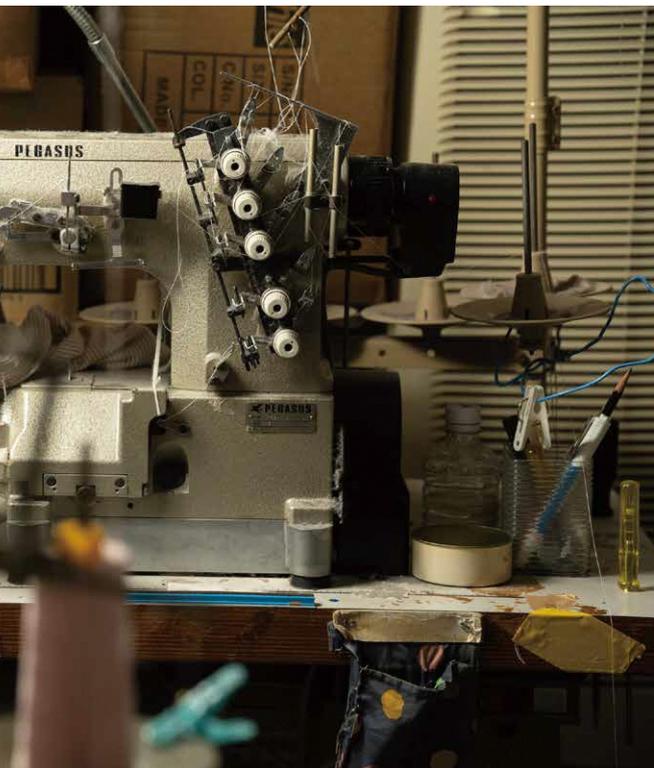
たか子さん「よそから来た私たちを気に掛けて、地元の方が親切にしてくれました。子どもも町全体で育ててもらったような感じです。雪の影響がほとんどなく商品の輸送にも支障が出ないし、空港が近いから急ぎの対応ができるので、仕事をするにも大変都合がいい場所でしたね」



1969(昭和44)年11月、島田メリヤス竣工式での岩本夫妻

会社から独立して

徳光さん「当時島田メリヤスは、辞める人がいればすぐ新しい人を採用するという方針だったので、復帰希望の声が元従業員から上がっても応えられず、仕方なく町外で働く人もいました。せっかく身に付けた技術だから、地元でその力を発揮できたらいいのという思いも、独立を後押しした理由のひとつです。自分の名前にちなんで"光ニット"という屋号で、約10人の従業員さんと30年ほど頑張りました。バブルが崩壊して仕事が減少してきて、規模を縮小し3人の従業員さんと共に再スタートしたのが、現在の"アパレルそのぎ"です」



縫製の仕事

現在、夫婦2人で営む"アパレルそのぎ"。全国のアパレルメーカーからの注文で、子ども服やよだれかけなどの小物、近年は犬の服の縫製も行っています。メーカーから届く生地を仕様書のとおり縫製。2人で200枚の子ども服を、およそ1週間で縫い上げるというから驚きです。

作業場には役割の異なる20台のミシンや機械。徳光さんは縫製だけでなく機械もプロで、修理はもちろん、製品に合わせてミシンを独自に改造することもできます。50年選手の機械が現役で稼働し、他ではできない装飾が可能なのも徳光さんのなせる技。メーカーの社員が関東からわざわざ研修に来るほど、特殊な縫製ができる会社として全国でも一目置かれています。



この道60年以上、ミシンをまるで体の一部かのように自由に操る

やっぱり仕事が好き

たか子さん「コロナが流行し始め、マスク縫製の注文が殺到しました。その対応で私たちも従業員さんも疲弊してしまっただけです。ひと段落したらもう仕事は辞めようと、一旦会社を整理しました。しばらく休んでいたんですが何だかつまらなくて、結局また仕事を再開して夫婦2人でぼちぼちやっています。年齢が年齢だから、趣味や楽しいことをできるだけ優先させています。これからも気分転換したりお昼寝したりしながら、自分たちなりのペースで無理なく続けていきたいですね」

取材とぼれ話

たか子さんの趣味はカラオケやドライブ、笑いヨガ。徳光さんは町内行事や慰問演奏などで活躍するバンド「ブリッジボーイズ&K」のボーカルで、ゲートボールは九州大会に出場する腕前。夫婦共通の趣味は魚釣り。

そのぎ茶市で演奏する
ブリッジボーイズ&K

